

第3回和島地域委員会 次第

日時：令和2年2月19日（水）

午後4時から

場所：和島保健センター検診ホール

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

- ・今後のまちづくりの提案や広聴のあり方の検討について（2回目）

4 報 告

- （1）統合斎場建設について
- （2）令和2年度地域の宝磨き上げ事業（案）について
- （3）令和2年度ふるさと創生基金事業の実施について

5 その他

- ・地域委員会交流会について

6 閉 会

<今後のまちづくりの提案や広聴のあり方の検討について II>
前回の地域委員会における主な意見と検討の方向性（案）

1 「広聴の仕組み」に関する主な意見

- ア 生活系の住民の声は区長会等の方が集めやすい 中越山小和寺与川
- イ " の集約はコミュニティ協議会に期待 栃与
- ウ 区やコミセン、民生委員等で意見を集約し、地域委員会・支所と関係する方がよい 中三小和川
- エ 青少年や女性など多様な住民、声の小さな住民の意見などをバランスよく吸い上げる仕組みを望む（座談会やアンケート、SNS 活用などを重層的に活用） 中山和与栃川
- オ 意見が検討の俎上に上り着実に市政に反映される仕組みを望む 山

まとめ

- ア 区長会、コミセン等地域住民に密接した組織を活かす
- イ 多様な住民の意見をバランスよく吸い上げる
- ウ あがった意見がしっかりと取り上げられる

2 まちづくりの提案における「検討の仕組み」に関する主な意見

- ア 課題、テーマ、エリアごとにピンポイントでふさわしい人（意識や実行力のある人、専門家など）が検討できる柔軟な仕組みがよい 越三山小川
- イ 幅広い年代で検討できる仕組みが望まれる（融合も含めて） 三栃川山和
- ウ 青少年を含む若者の意見が取り入れられる仕組みが必要 栃与
- エ 懇談会形式などカジュアルで意見がいいやすいメンバーで検討できるとよい 山和川
- オ コミセンに情報が集まる。地域づくりの検討の軸はコミセンに期待 栃寺与川
- カ 地域の枠をまたぐ横断的な検討機能が望まれる 越和
- キ 検討結果が住民に認知され、市政にフィードバックされる仕組みが必要 越山川
- ク 地域のハブ的な中間組織機能（コミセン等）があるとよい 三
- ケ まちづくりやイベントなど新しいことを創造する活動は（任命制ではなく）住民が自発的にやる方がよい 与

まとめ

- ア 課題、テーマに応じた柔軟なメンバー構成で検討できる
- イ 幅広い住民が検討に参加できる
- ウ 気軽に意見を出し合って検討できる
- エ コミセンを軸に地域の一体性を持たせることができる
- オ 検討結果の実現性を高める

3 現在の地域委員会の役割や機能等に関する主な意見

- ア 俯瞰して課題を融合し、地域の未来を含めて検討する仕組みは必要 山小三栃与川
- イ 地域委員会が果たしてきた役割、実績は大きい 栃
- ウ 住民と対話する場（公聴会等）、課題を一緒に検討する場があるとよい 三川
- エ 年齢、性別、職業など幅広い分野、他の地域からも参加できるとよい 越三和
- オ 地域委員会とコミセンのまちづくり部会、町内会との役割の整理が必要 中
- カ 検討結果が実行される仕組みが必要 三与
- キ 合併地域単位の視点からオール長岡の視点に施策を切り替える時期では 越栃
- ク 施策報告の場となっており一定の役割を終えた。区長会、コミセンなどで代替可 中越小寺栃
- ケ 住民に認知されていない。役割と成果を明確に 中三寺川

まとめ

- ア 地域委員会の役割を整理する必要がある
- イ 俯瞰した立場から地域課題を検討する仕組みは必要
- ウ 検討結果を地域内で共有するとともに実行性を高める仕組みが必要
- エ 幅広い分野から委員を選任することが必要

4 地域の現状と課題（地域間の違い）

- ア 連合町内会の有無
- イ コミセンの有無
- ウ 人口減少と高齢化の進み具合
- エ まちづくりの課題（除雪、交通、高齢者見守り、交流事業）
- オ 若者組織の活動量 など

まとめ

- ア 地域ごとに人口や組織、課題に違いがある

今後の検討の方向性（案）

[ポイント]

- (1) 地域特性に応じて柔軟に組織とメンバーを設定できる仕組み
 - 専門性と多様性の両立
- (2) 検討結果が地域住民に認知され、市の政策検討に取り上げられる仕組み
 - 代表性・実行性の強化

1 広聴の仕組みについて

- ア 道路や防災、除雪など生活の課題に関する広聴は、総代会や区長会などでも担うことができる
- イ 世代別、職業別などバランスのとれた意見を集めることができる（座談会、アンケートなど）
- ウ 普段意見を言う機会の少ない人や若い世代、女性なども意見をあげることができる（SNS など）
- エ あがった意見が市の政策検討に取り上げられる

2 検討の仕組みについて

- ア 地域の特徴（人口、人材、組織、課題など）に沿った検討の場を柔軟に設定し、ピンポイントで検討できる
- イ 座談会、ワークショップなどのように、気軽に意見を出し合って検討できる
- ウ 俯瞰した立場から検討することができ、その検討結果を区長会やコミセンなど地域内の関係者で共有できる
- エ 地域の枠を越えて、様々な個人や団体が柔軟に連携して検討できる
- オ 中学生などを含む多様な世代が共同で検討できる
- カ 検討した内容が地域住民に認知され、市の政策検討に取り上げられる

資料 1 別紙

令和 2 年 2 月 1 9 日

地域振興戦略部

第 1 回目の主な意見等

	和島	中之島	越路	三島	山古志	
主な意見等	「広聴の仕組み」	<ul style="list-style-type: none"> ・全地域の住民の声を聴くのは難しい。モデル地域を指定して実施することも必要 ・地域の現状を知るには、区長の意見を聴く機会を増やす方が良い。 ・区長から行政につないでもらうと行政との距離も近くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域委員は連合町内会との接点がほぼないため、所属団体以外の地域住民の意見を吸い上げるのは難しい。 ・コミセンに集めた若い人たちに連合町内会長が話をし、それを地域委員会でまとめる。 ・若い人の意見は、小・中学校の保護者へのアンケート調査やSNSを活用して聞く。 ・イベントでアンケートを書いてもらう。 ・年配者向けには回覧板や連合町内会長から意見を吸い上げるなど、地域委員会と町内会が連携して幅広い年代に意見を聴く。 ・地域委員会と連合町内会長が協力し合うことで若い人や年配の人からも意見を聞けると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会長が地域の要望等を支所へ伝えている。地域委員は、幅広い意見を聴くため、年齢・性別・職種別に構成された組織がよい。 ・若い世代から意見を聴くような場も必要 ・越路は区長・総代・町内会で協議会を設立し要望をとりまとめているため、地域委員会は不要と感じる。 ・区長、総代会、町内会からの方が、地域の細かい要望を吸い上げやすい。 ・地域委員会ではなく、市が行っている審議会等に地域の代表から入ってもらえば良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域委員が、区長会、コミセンで力を合わせて行くと良い。 ・地域委員会で公聴会を開き、地域委員と住民が直接話をする場を設けるのも方法 ・地域委員会の中だけで話をするだけでなく、他の団体の方も入れて話したい。 ・委員の所属団体等で聞かれる声を吸い上げ、アウトプットできるような仕組みが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域委員として地域の意見を集約しているというより、個人の意見を発言している。 ・衣食住など基本的な生活が守られる環境づくりについて要望できる環境があると良い。 ・要望は、地域委員会でピックアップしたことはなく、支所にダイレクトに伝えている。 ・毎年、支所の保健師が主体となって地域座談会を開いているが、意見は出ても検討の場がない。
	「検討の仕組み」	<ul style="list-style-type: none"> ・区長は1～2年で交代してしまうため、まちづくりに対する意識が薄い。 ・他の地域や団体も仲間に入れて課題の検討を行うことも良い。 ・「これからの和島を考える会」は、いろんな分野の方が参加され、とても刺激を受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハード面は連合町内会連絡協議会、未来に向けてのまちづくりの検討は地域委員会が行う。 ・ふるさと創生実行委員会の活動は活発なので、どんどん進めたい。 ・コミセンのまちづくり部会と同じようなことやっているので整理が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題ごとにふさわしい人を選出して協議する。 ・専門家をオブザーバーとして呼び、議論を深める。 ・部外者を入れて議論すれば、新しい発想が得られる。専門性と多様性が必要。 ・分科会において、地域の人を巻き込みながら検討をすれば良い。 ・予算の話が出ると議論が止まる。地域委員会は話はするが実行はできない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて外部から専門家に入ってもらえば良い。 ・情報共有が重要。幅広い年齢の方から話しを聞く必要がある。 ・地域委員会は検討するだけでなく、実行性を持たせなければならない。 ・まちづくりのための中間組織をつくと様々な活動（イベント）にも協力できるのでは。 ・実際に三島を動かしていける人が集まると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域委員会のような格式ばったものではなく、自分たちの生活について話のできる若い人たちの場もあった方がいいのではないか。 ・地域委員会でなければ解決できなかった課題もあった。今の地域委員会に代わる器はない。 ・検討する仕組みを作ったとしても、組織として発言力を持たせなければならない。地域の代表機関として諮問できるようにお願いしたい。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・生活交通の実証実験をしているが利用者が少ない。 ・10年先20年先の未来からの発想で取り組むことで、今と違った取り組みや方向性が出てくる。 ・交流や助け合いの場を作っていないと地域は成り立たなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者主体で、外に出た若者が戻ってくるイベントをやりたい。 ・住民からの要望をどこに持っていかばいいかわからない。地域委員の役割を明確にして、動きやすくしてほしい。 ・区長会、総代会には女性がいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合併から15年経っても「合併地域」でいる、越路地域のことだけを考えてよいのか。若い人が残らないのはそれが理由では。 ・オール長岡を提唱するなら、一般市民参加の協議会や委員会に地域から委員を出して議論すればよい。 ・地域委員会は「施策を決めた後に説明する会」と化している。市の施策の説明は住民懇談会でよい。 ・他市で地域委員会的な組織があるところないか。あればその活動内容等が知りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のテーマは地域委員会で検討すべきことなのか。戦略部で方向性を決めてもらいたい。 ・地域委員会の存在を知らない人、地域委員会が何をしているか良く分からない人が多い。 ・三島地域全体を俯瞰して見れる地域委員会のような話し合いの場は必要 ・地域委員会はいろんな面で制約がある。もっと動きやすい地域委員会にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの集落の課題や問題は集落の中で何とかしていきたい。 ・子育て支援のやまっ子クラブや山古志住民会議など重要な役割を果たしている。 ・様々な組織があるが、それぞれ独自に動いているので、情報をまとめ課題を融合する必要がある。 ・世代間のつながりがないので、集落行事や農作業など若い人に役割を与えることも必要ではないか。

		小国	寺泊	栃尾	与板	川口
主な意見等	「広聴の仕組み」	<ul style="list-style-type: none"> ・3小学校の統合にあたっては、地域委員会が旗振り役となって実現することができた。 ・総代会は集落がバックにあるため、意見の集約という面では重要。 ・地域づくり交流会では、支所とコミセンが連携し意見をきいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広聴機能は寺泊全地域の区長会が果たすのが良い。 ・海岸地区と大河津地区で抱えている課題が違う。 ・年1回町内会要望を出しているが、それを工夫すれば広聴の代わりになるのではないか。 ・区長連合会は横の繋がりがあり、情報を聞き出しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生や高校生、女性など世代や性別に関わらず多くの人達が参加できる広聴のしくみが必要 ・多様な地域課題、生活や暮らしを守る方の意見・提案を聞くのは、コミュニティ協議会が担っていくと思われる。 ・コミセン運営委員や8つの地区コミュニティをうまく活かせればよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人数が限られた地域委員会では37ある町内会、活動団体、コミセン等の地域全体の広聴機能を担うのは難しい。 ・これまでの与板地域委員会は広聴の場ではなく、課題の検討、企画の面を担ってきた。 ・地域や年齢、職業等のバランスのとれた広聴組織とする必要がある。 ・連合町内会を立ち上げ、広聴の場としてはどうか。 ・多岐にわたって様々な団体関係しているコミセン協議会を広聴の場とするのはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・川口12地域の声を拾うには総代会が適している。 ・ピンポイントで地域の声を拾ったり、課題について検討することも必要 ・地域の課題など、総代会と地域委員会で情報共有がされていない。 ・SNS等で各地域別の声を拾うようなシステムを作る。 ・子育て世代の声を拾い、どのように市に伝えるか。 ・高齢者のことを良く知っている民生委員の声を吸い上げることも必要 ・小さい声を拾える気軽に参加できるような委員会がいい。
	「検討の仕組み」	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマごとの仕組みをつくる構想もある。 ・総代会がまちづくりを考えるのは難しい。 ・まちづくりについて、地域委員会で話し合う大事なことである。 ・硬いメンバーよりは、総代等を入れて話し合いをした方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミセンがまちづくりで動いており、地域委員会に代わりうる組織であると期待している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも栃尾全体を考えるような仕組みづくりは必要 ・高齢者や若者が融合するような仕組みづくりが必要 ・まちづくりは高齢者が中心となっているような気がする。若者の意見が取り入れられるような栃尾のまちづくりにしてほしい。 ・人口が減っても、若い人のアイデアを取り入れ、交流人口を増やす。 ・人口減少は避けられない。人口が少なくても暮らしやすい、生活しやすい場所にするための検討ができる場があるといい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域委員会は上がってきた提案についてまとめる場とした方がよい。 ・コミセン協議会を意見を吸い上げる場として、利用できないか。 ・まちづくりやイベントはやりたい人が自由にやれば良い。 ・若い人の意見が反映されるような仕組みづくりが必要 ・検討の場という組織を行政が作り、そこに任命するという手法では、強制的になってしまうのではないか。 ・新しいものを生み出すための組織は自発的であるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エリア、世代からピンポイントで課題を抽出し、検討することも必要 ・いろんな世代から参加し、話し合えるような場がほしい。 ・専門家を入れて検討できるような場がほしい。 ・それぞれの団体の活動が住民に伝わっていない。 ・コミセンがまちづくりの検討の場となる。 ・地域に課題を投げ掛け、一緒になって考えるような仕掛けが必要
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・集落の世帯数が減ってきていて、総代や役員の成り手がいない。 ・地域委員会で区割りを見直すような検討は出来ないか。 ・総代には女性がいないので地域委員会の代わりにはなり得ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域委員会は限界にきている。 ・地域委員会で事業化されたものなど、成果について見せてほしい。 ・大河津地区では「みんな食堂」が喜ばれている。大河津地区が元気になっていければ良い。 ・波音などの組織がコミセンを受け継いでいけると期待している。 ・お金に結び付く産業が自分たちで出来たらよい。 ・地域交通の問題はコミセンではできないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域委員会の果たしてきた役割は大きい。 ・地域委員会は役割を終えたと考えている。 ・合併地域の枠がまだ残っている。一体化が進んでいない。一体化を目指す方向性を重視していくことが大事 	<ul style="list-style-type: none"> ・与板には37の町内があるが、連合町内会がない。 ・長岡市の考えを示してほしい。 ・地域委員会で協議したことが反映されていないように感じる。 ・地域団体等が自由に活動するのは良いが、地域委員会との位置付けをはっきり定義する必要はある。 ・現在の地域委員会の形で広聴も検討もというのは難しい。 ・「広聴」と「検討」は別の組織としたほうが良い。 ・広聴で出てきた多様な意見を「まとめる組織」として地域委員会は意義がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域委員の活動や役割が住民によく知られていない。 ・公式ではないが、気軽に意見を出してもらえるカジュアルな場がほしい。 ・地域委員会という名前を変えて、もう少し柔らかいイメージにした方がよい。 ・市から地域に危機感を持ってもらえるような働きかけをしてもらいたい。 ・地域委員会は住民の意見を述べたり陳情等もできる良い機会であるので、川口地域にとっては必要と思う。名前は変わったとしてもシステムは継続してもらいたい。

地域審議会等に関する他市の事例

令和2年2月19日
地域振興戦略部

1 団体の名称	2 主な役割	3 人数	4 任期	5 提案・要望事項の事業化への仕組み等	6 主な成果	7 課題等	8 見直し等
新潟市 区自治協議会	①市長等からの諮問事項に対する審議、答申 ②区民等と市との協働の要として、区民等の多様な意見の取りまとめ ③地域課題の解決及び情報の共有	各区30人以内	2年	1 提案事業は、特色ある区づくり予算事業に反映されている。 ①区が主体的に行うもの ・区役所が企画する。 ②自治協提案事業 ・協議会が主体となって、地域の課題に対して必要と思われる事業を企画する。 2 その他、大きなハード事業などは要望書として市に上げているものもある。	・社会実験としてのJRの増便 ・住民バス等の試験運行 ・市道の除雪路線の拡大 ・宅配サービス一覧の配布により買物を支援 ・男女の出会い創出 ・「区ビジョンまちづくり計画」の策定 ・自主防災組織の結成 等	・役割の多様化に伴い、役割に対する認識が関係者間で異なっている。 ・若年層や子育て世代の委員が少ない。 ・自治協提案事業に多くの時間を費やしている。 ・自治協提案事業がマンネリ化している。 ・市からの報告案件が多い。 ・認知度が低い。	平成29年度に検討委員会を設置し、制度の見直しを検討した。（見直し後の制度運用は平成31年度から） [見直しの方向性] 従来以上に、組織のあり方を区の実情に合ったものにする。 ・全市統一となっている委員の要件や、自治協に意見を聴く項目などを区の裁量に委ねる。 ・行政からの全市的な説明・報告は減らしていく。 ・自治協提案事業に、委員と区民がより主体的に関わる。 ・話しあうテーマは、区内のまちづくりに関すること、課題を中心とする。
上越市 地域協議会	①市長等からの諮問事項に対する審議、答申 ②意見聴取（新市建設計画など） ③区域内の課題について自主的な審議、提言など ※各区で自主的に委員が直接集落に出向き、聞き取り調査を実施している。	各協議会12～20人	4年	・地域協議会からの要望事項については、該当する部署に報告し回答をすることになっており、内容によっては、政策検討の俎上に上がる場合もある。	・地域の課題を把握し、解決に向け議論する場ができた。 ・地域協議会での議論により、課題解決に向けた具体的な取組として地域に働きかけを行い、区域の課題（移住促進、高齢者支援）に取り組む団体の設立につながった事例がある。	・地域協議会の活動の住民への周知、認知度の向上 ・委員の若年層、女性の比率が低い。 ・地域の団体等との連携を一層高める必要がある。	・現在は、地域からの意見や要望を市に上げることが、今の主な任務になってきている。 ・地域の課題は、住民や地域活動団体と連携しながら、地域の中で解決できるような方向に持っていきたいと考えている。
佐渡市 地域審議会 （※平成25年度末で廃止）	①市長等からの諮問事項に対する審議、答申 ・新市建設計画の変更、執行状況 ・地域振興のための基金の活用 ・新市の基本構想の作成・変更 ②地域審議会が必要と認める事項について審議	15人以内	2年	・地域づくりに取り組む地域活動団体や実行委員会等の自主企画事業に対しては、市から補助金を交付している。 ・地域活動団体等から市に要望を上げるようなシステムはない。	・新市建設計画の見直し ・国道350号両津バイパス、北埠頭開発 ・社会教育施設の統廃合 ・佐渡インフォメーションセンターの開設 ・小中学校統廃合計画、保育園の民営化統廃合 ・地域のランドデザインの策定 ・地区の課題に対しての具申等	・地域活動団体等が行う事業等、地域によって差が出ている。（地域審議会廃止後）	・地域審議会は平成26年3月31日をもって廃止した。（合併市町村との協議により、当初から設置期間を10年と定めていた。） ・その後は、地元の地域活動団体等がその業務を引き継いでいる。 ・地域審議会の廃止に伴い、集落等からの要望（修繕等）を各支所又は行政サービスセンターで受ける地域要望制度を設けている。

これまでに地域委員会が関係した事業等(主なもの)

令和2年2月19日

地域振興戦略部

- | | |
|----------------------------------|-----------|
| 1 ふるさと創生基金事業 | |
| H17～H30 延べ409事業 | 約3億円 |
| 2 地域の宝磨き上げ事業 | |
| H27～H30 延べ106団体 | 約1億1千万円 |
| 3 保育園、小学校の統合 | |
| ア 小国小学校の開校(小国) | |
| イ 東川口保育園と西川口保育園の統合(川口) | |
| ウ 寺泊保育園の開園(予定)(寺泊) | |
| 4 コミュニティセンターの開設 | |
| 中之島、三島、小国、寺泊、栃尾、与板、和島(予定)、川口(予定) | |
| 5 地域内交通 | |
| ア 乗り合いタクシー「なかのん号」の実証運行(中之島) | 300万円 |
| イ 移動バスの実証実験(和島) | |
| 6 施設等整備 | |
| ア ケーブルテレビの整備(中之島) | 5億5,750万円 |
| イ もみじ園(公衆トイレ・茶屋)の整備(越路) | 6,858万円 |
| ウ 脇野町雨水幹線の新設とポンプ場の増強(三島) | 4億4,000万円 |
| エ 光ファイバーによる高速通信基盤の整備(山古志) | 1億339万円 |
| オ おらたるのバリアフリー化等(山古志) | 9,398万円 |
| カ 住雲園の改修(和島) | 1,404万円 |
| キ 救急医療体制の整備(栃尾) | 5,129万円 |
| ク 栃尾地域交流拠点等整備基本構想(栃尾) | |
| 7 その他 | |
| ア 若者会議の立ち上げ(中之島・寺泊) | |
| イ 図書室の開館時間の延長(越路) | |
| ウ やまっこクラブの開設(山古志) | 324万円 |
| エ 観光案内看板の設置(与板) | 49万円 |
| オ 放課後児童ふれあい広場を川口小学校へ移設(川口) | |

※上記のほか、道路や下水道、公園等施設の整備・管理、防災、防犯など、地域の暮らし全般に関して
いただいた意見を参考にして、毎年度の事業を検討し予算に反映しています。